

所 報

発行者 宮古島市立 教育研究所
所 長 與儀 千寿子
宮古島市下地字上地 472-39
宮古島市下地庁舎 3 階
TEL 0980 (76) 6400 FAX (76) 6154

スタートから一ヶ月 教育研究所の近況

五月も後半、与那覇湾の岸边を煙らせて、日がな降り続いてきた雨がやむと、今度は暑い日が続いています。このような変わりやすい天候に、各学校では、児童生徒の健康管理にも殊の外、気を遣っていることと思います。

家庭訪問も終え、学級担任の先生方には、児童生徒個々の問題、家庭の問題、学級の問題等、多くの課題が見えてきた頃だと思えます。教育研究所では、「まていだ教室」の担当者、「教育相談室」の相談員が教育事務所、委員会の担当者とともに、学校訪問を行いました。

各学校での細やかな対応に触れることで、多くのことを学んでいる様子に聞くにつけ、学校の先生方や保護者とともに協力しあって、子どもたちの健やかな育ちの土壌を作っていかなければと決意を新たにしています。

- ① 子どもを理解すること（正面から向き合う）
- ② 親を理解すること（良き支援者とは何か、問い続けること）
- ③ 先生方（学校）の教育方針を理解すること
- ④ どのような接し方が良いのか、共通理解を図ること
- ⑤ 焦らず、あきらめず、常にさしのべる（心）を用意していること
- ⑥ 子どもの健やかな（素直な）心を取り戻すために、何が最善か、話し合いながら進めること・・・等

迷い、逡巡しながら進んでいるところですが、多忙な中で、下地庁舎まで足を運んで下さる校長先生や担当の先生に頭の下がる思いです。私たちもどのような形で先生方に支援ができるのか、情報交換を密にしながら頑張りたいと思います。



＜長期研修 研究テーマ＞ 「話すこと・聞くこと」の力を育てる工夫 ～目的や場面に応じた言語活動を通して～

平成 22 年度前期の長期研修は、中学校国語教育です。国語教育の分野は広く、文学作品（小説、物語、詩、俳句、短歌）非文学（随筆、説明文、論説文、）の読解指導、文法（言葉のきまり）漢字、熟語（語彙）、古典の読現）＝音読・朗読、スピーチ、対話、ディスカッション、（討論）、ディベート、等多岐にわたります。

その中で、今回は、目的や場面に応じた話し方を身に付けさせるためのの試みをしてみようというわけです。

仲榊京子先生（狩俣中）が、現在理論研究中です。これから検証授業を重ねながら 9 月の発表会に備えます。

国語科としての「話すこと・聞くこと」の授業作りも工夫が必要ですが、各教科の授業作りでも、発表すること、友達の意見を聞くこと、話し合いをしながら（意見を戦わせながら）理解を深めていく授業を作ることは、生き生きとした授業につながると思います。

教師主導の授業から、児童生徒が積極的に参加する授業を作るために、「話すこと、聞くこと」を教師が意識すること、学校全体で訓練することが重要なことだと思います。

学校全体で「聞くこと」の訓練を 「聞く力」を育てるためにできること 1、メモの取り方の工夫と継続を

- ◆ 校長講話を聞く
- ◆ ホームルームの先生の話聞く。
- ◆ 生徒会総会での話しを聞く。
- ◆ 立候補あいさつを聞く。
- ◆ 授業中の先生の話の要点に注意して聞く。
- ◆ 校内放送等のお知らせを注意して聞く。
- ・・・等

私たちは、学校生活の中で、多くの話しや情報を聞き流してしまっていることが多いと思います。まずメモすることの習慣化を図ることを、学校全体で始めてみませんか。聞くことに対する意識が高まってくると考えます。

「聞くこと」に対する意識が高まれば、話すことについての意識も高められると思います。そして、相手の立場に立って話すことにつながります。ひいては、集中力を高めることにもつながっていくのだと思います。

もう一度「聞くこと」について、学校全体で確認してみませんか。

